
こちらの私と向こうの私達

楽恋 鈴亜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「彼らの私と向こうの私達

【Zコード】

Z3540BA

【作者名】

楽恋 鈴亜

【あらすじ】

主人公の楽恋鈴亜は、オタク以外では普通の女子だった。ある日、本屋である本を買った。家に帰りその本を読み終えたあと着替えようと衣装箪笥を開く。すると、並行世界の私の自室につながつていた。一冊の本で繋がる少女と並行世界のもう一人の自分の物語。

プロローグ 入口は衣装箪笥

「眠い……」

春休みの日曜日の天気の良い午後に「なぜ私はこたつで寝ているんだつて？」

そりやあ一晩ずっとネットサーフィンやっていたからに決まっている
じやん

「鈴亜ーー起きなさいーー！」

「うるさいな……

「起きてるよーーーー！」

お腹すいたし面(おもて)はんでも食べるか……

「はあ・・・春休みだからって勉強もしないんだつたら少しは出かけなさい」

まあそりなんだうつけど

「わかつたよ、じゃあ食べ終わったら少し出かける

（昼食後）

はあ・・・めんどくさいなあ・・・本屋にでも行こうかな
少し寒いな・・・家に引きこもりっぱなしも問題か・・・

「帰宅」

「ただいま」

なんか新刊で面白そうなのがあつたけど、内容は・・・パラレルワ
ールド系か・・・面白そつだな

（5分後）

「面白かつた」

考えられる系だつたなあ～パラレル系だとやつぱり王道のクローゼ
ットなんだよね・・・

・・・うちの部屋クローゼットがない・・・

「つか・・・ないかあ・・・とりま着替えよーっと」

衣装箪笥を開けば暖かい風が

「え？ 暖かい風？」

なんか衣装箪笥の奥に空間が見えるんですが・・・

「行つてみようかな・・・」

「え？ 誰・・・？」

え・・・なんか衣装箪笥くぐつたら私と瓜二つに人がいるんだが・・・

?

「不審者」

違ひ違ひ！ さてか君誰！ ？」

「和は樂恋」

「おがと選手」の銘鑑

卷之三

なは、なはこれ、あれで、か、まわた

卷之三

卷之三

卷之三

— 1 —

なへて!!?と、たゞNの?

やつぱりあの本と同じ……

「パラレルワールド……」

「え？」

さつき買ったばかりの本を取り出す

「この本と同じ」とが起きて「この本」と「」

その本を見たときにもう一人の自分は言つた

1

「自分もさつき買つたんだけど・・・」

ヒトとは?

「その本が私たちをつなげたってことかしらね？」

「え」

ええええええええええええええええ！？！？！？！？

私は今日、もう一人の自分に出会った

20.i もうひとつの私（前書き）

オタクな「私」
運動好きな「私」

で・・・

今現在「自分」の方の部屋にいるんだが、

「どう、なでないとひなつたのかな?」

「なにか共通点があるといじとドショ・・・

そつか・・・あれ? 本でつながつたといじとせ・・・

「あれ・・? もしかしたらなんだけい、いの本を置つたからつながつたんだから・・・」

「まあそつだけい、じつかしたの?」

つて」とせ・・・

「もしもなんだけいほかの並行世界の私達もいの本を置つててるんじや・・・」

「あつえむね・・・」

まじですか。そんなことあるんですか? 扉が衣装箪笥だったから何かのところもあるある系なのかな?

「あんじやね?」

「はあ・・・」

自室からパソコンを取り出し検索してみる

「君、パソコン使えるんだ！？」

え？

「君も「私」だから使えるんじゃないの？」

驚いたように叫ぶ

「全然使えないし興味もないから使ってないけど」

あれ？「私」だからといって性格が同じじゃないのか。いろんな可能性って意味ではそうなるけど・・・

~~~~~

出でないか・・・

「やつぱつこんなことは前例になつぱこね・・・」

「まあ私の世界にもそんなことが起きていいからね・・・」

そう言えばそうだ。いろんな可能性ってこり」とは、世界が違うパターンもある。

しかし、自分の世界と「私」の世界はほぼ同じな世界・・・

「私、スポーツしか目がないから、こんなことが起きて驚いた

「…」

「スポーツ・・・」

私は違ひ性格、いやどこかで分歧した最も近い性格・・・・・・・  
そつか…どこかで分歧したつていうことは、この世界とは全く違つ  
世界があるつていうこと・・・  
つまり、この異例の事態が起きた理由がわかる世界があるつていう  
ことだ…

「じゅあつまう・・・・」

「ビバ! かこその世界につながる扉があるつてこり」と

「これで、なぜこなことが起つたのかがわかるのか!」

## 20・2 「私」の世界と「私」の世界の違い

違つ世界か…

外の世界は窓からしか見えないけど、「私」と同じ世界だ

「私の世界と同じが違つんだらしく」

「ふと、疑問になつた。

「じゃあ外に出してみる。」

「私」がこきなり言いだす

「無理があるのでしょ、顔も色々と瓜二つじやん」

「じゃあ親戚とでもいえぱ」まかせるよー。」

無理があるだろ、親戚でも同じ顔の人なんていないんじゃないのか？

「わあわあ着替えて出かけるよー。」

「はあ・・・」

衣装箪笥から浴室に戻り着替える

「どこの違つてどこのがあるかもしねない

違つ私はどんな生活をしてくるのか

少しわくわくすると同時に

違う世界に私が介入していいのか

そんな心配もあった

「着替え終わった？」

「ふと「私」の声で我に返る

「おわったから今行くよー！」

まあいいか、

違う世界に普通の一般人の私が介入したところでなにも変わらない

「じゃあ最初はどこに行く？」

「もうだなあ・・・」

ほとんど同じひと一緒に可能性が高いから・・・

「学校に行ってみたいな」

「学校ね、今は春休みだからほとんど誰もいなーむだけどこって  
みましようか」

## 20・3 「私」の学校

ところが、私たちは今「私」の学校にいるんですが、

「予想通りだつた」

外見も人も全部同じだつたようだす。

でも、よーく見ると、ちょっと違つといふがあるんですね。

例だと、「私」の学校では美術部でも「私」の世界は野球部、みた  
いな?

「あれ～？鈴畠じやん！」

ん？あー「私」の世界にもいた三春じやないか？

「おーー三春お久ー」

やつぱり三春があーこの世界の三春はあんま変わらないなあ

「あつ？あの子だれ？鈴畠にそつくつじやん」

やまつづりまかわら…

「えつヒ・・・あの・・・」

やばー…思いつかねええ…!!

「ことじのナだよ～」

「アハアハー私、鈴蘭のことじの・・・えつと・・・鈴蘭ー」

「へえ～よひしへー私は三春つてこつんだー」

「私、といわすかねー私は三春つてこつんだー」

「あはせせきあつわづだーちよつと聞きたことがあるんだぞ～」

「なに～？」

「ん？・ビうしたのかな？」

「（）」海辺にいきなり現れたりした扉みたいなものが付いてるどいつてない？」

「うへん・・・・あつ・アハアハ～えれば海辺になんか変なのがあるひしよー」

「あるんがよ・・・・一じやあそこが

「扉の入り口（）ことだねー」

「？」

「三春つかねあつがヒー」

「じゃあ次行くべきヒーは海辺か・・・

「じゃあ逝りますか！」

え？ ちよ漢字変換ちがくね？ しかもなんで私の袖を持つて全速力で走る準備をするんだい？

[ ८ ]

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3540ba/>

---

こちらの私と向こうの私達

2012年1月13日15時52分発行